

新基地建設反対名護共同センターニュース

渡具知名護市長は「辺野古」推進に舵を切った



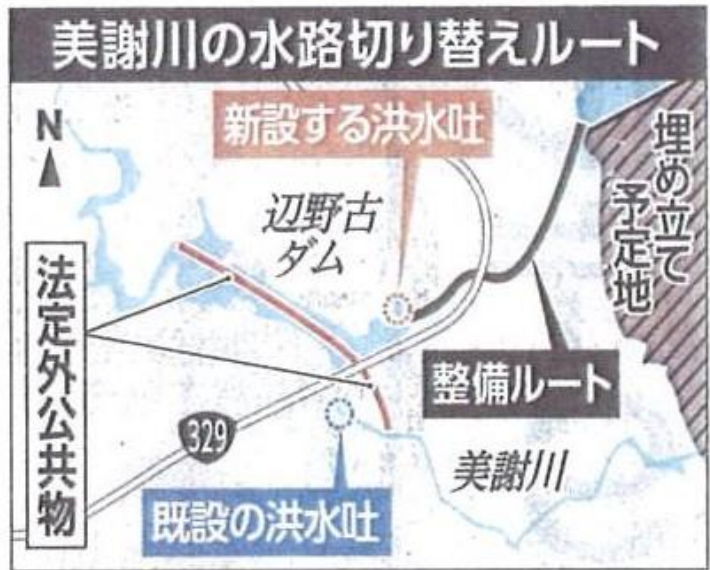
写真上は挨拶する屋良衆院議員（中央）、左写真は岸本市議、写真下は報告する北上田氏（後姿）

へり基地反対協議会と島ぐるみ会議名護は24日、辺野古新基地建設のための美謝川の切り替えは許さないと名護市役所の中庭で緊急集会を開き、90人が参加しました。

平和市民連絡会の北上田毅氏は、美謝川の切り替え工事に関連し、沖縄防衛局が実施する辺野古ダムの洪水吐き付け替え問題で渡具知武豊名護市長が「防衛局との法定外公共物管理条例に基づく協議は不要」と判断したことは「新たに造る場所には市有地が含まれ、米軍に提供する目的で賃貸借契約を結んでいる。賃貸借契約の中で行うのはおかしい。国が買収すべきで誤りだ。渡具知市政は実質的に辺野古新基地建設推進に舵を切った」と批判しました。

集会には名護市議会の野党議員8人が参加。次期市長選への立候補を決意している岸本洋平市議は「新基地美謝川問題で市長ははぐらかす答弁一辺倒だった。今後も市民の声明と財産をしっかりと守っていく」と語り、稲嶺進前名護市長が「来年の市長選を勝ち抜いて市政のあるべき姿に戻そう」と訴えました。「オール沖縄」の屋良朝博衆院議員（沖縄3区選出）が挨拶しました。

来年の市長選であるべき姿に戻そう！



「沖縄の基地問題を考える」

東京オンライン学習会に80人が視聴

「沖縄の歴史と文化を見つめる会」と東京平和・国際教育協研究会は26日、「沖縄の基地問題を考える」と題してオンライン学習のつどいを開催、北海道から沖縄まで約80人が視聴しました。

名護共同センターと具志堅さんが報告

最初に名護共同センターの早坂義郎氏がパワーポイントで「辺野古からの報告」と題して県民が不屈にたたかう現場の状況を報告。次にガマフヤー・具志堅隆松氏が「南部の土砂を基地建設の埋め立てに使わせない」とりくみを報告しました。

若い世代中心の学習・交流会に

この後、沖縄の高校生、沖縄出身の本土の大学生、読谷の中学校での平和学習、東京の中学社会科の講師による「中学生は沖縄の基地問題をどう考えたか」など特に若い世代の視点を大切にされた多様な角度から沖縄の基地問題が深められ、交流されました。

「辺野古」終わらせるのは私たちの責務

閉会の挨拶で「沖縄の歴史と文化を見つめる会」の浅羽晴二氏が「沖縄の戦後処理は終わっていない。不当な辺野古新基地建設を終わらせるのは私たちの責務です。若い皆さんと共にこれからも頑張っていきたい」と話しました。

このつどいは、基地のない平和な沖縄をめざす会、沖縄戦首都圏の会、辺野古に基地はいらぬin三鷹、東京高校生平和ゼミナールが後援しました。



滋賀県でオンライン学習会 共同センターの早坂氏講師で



わかりやすく元気が出た

閉会挨拶で「革新の会しが」の西野三根子事務局長は「わかりやすかった。沖縄は政権交代の準備ができている話などオール沖縄から元気をもらいました」と話しました。

滋賀県で26日、「辺野古新基地建設反対たたかひの展望」と題する学習会をオンラインで開催しました。安保破壊滋賀県実行委員会、「革新の会しが」、滋賀県平和委員会が共催し名護共同センターの早坂義郎氏がパワーポイントで講演したものです。会場で14人（写真）、オンラインで6人、計20人が視聴しました。早坂氏はコロナ禍のもとでの辺野古のたたかひの現状と展望について80分ほど講演、質疑にも応えました。